

(六) 萩原すげ ― 日本初の女性灯台守

萩原すげは、明治二十七年（一八九四年）に白田に生まれました。すげの家は、稲取と白田の峠とうげでお茶などを出す茶店をやっていた。すげは、お母さんの実家がある今の富士宮市の小学校に通い、卒業後に服をぬう裁縫さいほうの先生の家に住み込んで働きました。

大正三年（一九一四年）に両親と白田に戻りましたが、これより前の明治四十二年（一九〇九年）にはトモロ岬に灯台が建てられていました。この灯台には灯台を管理する灯台守がいなかったのです、すげのお父さんが頼まりました。しかし、お父さんは年をとっていたので、すげが代わりに灯台守をやることになりました。

灯台守になるためには、資格が必要であったため、すげは下田まで灯台守になるための勉強に通うことになりました。電車やバスなどない時代でしたから、稲取から下田までの

往復約五十キロメートルを歩いて通ったのです。まだ日が出ない午前三時に家を出て、午前九時半に下田に着き、昼食をはさんで四時間の勉強をしました。午後三時半には下田を出て家に着くのは夜であり、これを八日間続けて資格をとったそうです。

すげは、戦争のため昭和十八年（一九四三年）に灯台の灯が消されるまで約三十年間にわたって灯台を守り、平成二年（一九九〇年）に九十六歳で亡くなりました。

